



★ 交流文化学科への合格 おめでとうございます ★

交流文化学科へようこそ！

交流文化学科のカリキュラムは、高度な英語を習得することに加え、第二外国語を学ぶことに大きな特徴があります。また、ツーリズム、トランスナショナル文化、グローバル社会の各分野について詳しく学び、英語の教職免許を取得することも可能です。入学後の4年間、みなさんは、さまざまな学習や研究を深めていくことになりますが、まず4月1日までにやっておくべきことを5つ、下記に挙げます。

1. 英語

みなさんは今まで、入試や定期テスト対策、資格取得のために英語を勉強していたのではないでしょうか？これからは、「英語のスキル」を「英語のツール」に変えていく必要があります。これから毎日、インターネットで動画を見るなど、英語を5分間聞いてみましょう！毎日英語に触ることはとても大切です。大学の授業の多くで、英語をアクティブに話したり使ったりすることが求められます。今すぐ、アクティブな英語の学習を開始して下さい。

また、3月末にはTOEICテストを受けることになります。TOEICのスコアは、入学後、最適な英語クラスを決定するために使用されます。リスニングとリーディング（L&R）のサンプルテストに目を通してください。TOEICについては、最寄りの図書館、書店などでも情報収集できます。インターネットでもTOEICについて調べてみて下さい。テストの内容について知っていれば、本番でも、よりよい結果が得られるでしょう。

2. 第二外国語

第二外国語の習得は、交流文化学科のカリキュラムの大きな特徴です。すでに学びたい第二外国語が決まっているのであれば、その言語を学ぶためのスタートを切りましょう。その言語について調べ、その言語を実際に聞いてみましょう。毎日、その言語を耳にすることが重要です。さらに、その言語について書籍などで調べてみましょう。文法的なことだけではなく、その言語がどのような文化的・歴史的背景を持っているのかを調べてみるとよいと思います。入学までの期間にそうした自己学習をすることは、4月に授業が始まったときに、かならず役立ちます。

3. 読書

この手紙と一緒に「推薦図書リスト」が配布されます。これは、英語教育、ツーリズム、トランクショナル文化、グローバル社会の各部門の教員からの推薦図書です。このリストの中から、興味を持った本を少なくとも1冊選び、読んでみてください。4月からの授業でもこれらの書籍は紹介されるでしょうから、事前に授業内容に触れることができます。また、専門書とは関係ない本も読んで下さい。小説や新書でも構いません。読書の習慣はとても大切です。自分の好きな本を選び、毎日本を読む習慣を身につけて下さい。

4. 計画

大学入学後の数年間はとても忙しい時間となるでしょう。勉強以外の時間についても、自己管理、時間管理が求められます。勉強時間、遊びの時間、アルバイトの時間、休息時間、それぞれのバランスをとることが大切です。「時間管理の達人」を目指し、いまから新しいスケジュールを立てましょう。1日、1週間の時間管理だけではなく、1か月、半年、1年のスケジュールも考えていくとよいでしょう。

5. 夢

これから4年間、みなさんには、やるべきこと、そしてやりたいことが、たくさんあるでしょう。「将来の夢」もあると思います。入学までのこの期間を、将来の夢を実現するための準備期間に下さい。大学在学中に何をやりたいのかをじっくり考え、それを実現するためにはどうしたらよいのか、考えてみて下さい。海外に留学したいのであれば、語学力を向上させ、留学のための試験の準備をしなければなりません。大学入学後に始めればよい、と考えるのではなく、いいますぐ準備を始めて下さい。大学在学中に職業体験やインターン経験を積みたいのであれば、どのような職種に応募すべきかを考え始めて下さい。入学までの期間は、将来について考えたり、友人や家族とそれについて話し合ったりする絶好の機会です。

大学入学後の4年間は、忙しくも、人生にとって特別な時間です。新しいことを学び、新しい友人を作り、将来の夢を実現するための特別な時間です！ 交流文化学科の教職員一同、4月にみなさんとお会いし、一緒に学ぶことができることを楽しみにしています。

外国語学部・交流文化学科
学科長 L. G. ボンド

獨協大学外国語学部 交流文化学科に入学を控えた皆さんへ

4月からの大学での「学び」に備えて、いまからできること 学科推薦図書

(* 印がついている本は、本学科所属教員の著作です)

大学での「学び」は、高校までの「学び」とは大きく異なります。

自ら問い合わせ、そしてその問い合わせの答えを自ら探していく。

大学では、学ぶこと、知ること、思考することへの積極的な姿勢が求められます。

大学4年間で、自ら考え、ものごとの本質を見抜く力を身につけましょう。

今から、さまざまな知識や学びの心構えに触れ、大学での「学び」に備えてください。

交流文化学科には4つの学びの分野があります。①英語の世界(&プラスワン言語)、②ツーリズム、③トランシナショナル文化、④グローバル社会の4分野ですが、これらは「コース」ではありません。4つそれが相互に重なり合って「交流する文化=ツーリズム」の学びを形成しています。この重なりが本学科の特長であり、強みだと私たちは考えています。

＜＜＜英語の世界＞＞＞

何かを比較したときに「なぜ?」という疑問が生じやすい。

「なぜ?」に出会うことが学問の第一歩。

同じことをコトバで表すにも、なぜAではなくBなのか・・・

畠山雄二(編)『くらべてわかる英文法』くろしお出版(1,500円+税)

英語と英語の比較に転がる「なぜ?」を考える一冊です。

池上嘉彦『英語の感覚・日本語の感覚』NHKブックス(970円+税)

英語と日本語の比較に転がる「なぜ?」を考える一冊です。

＜＜＜ツーリズム＞＞＞

* 山口誠・須永和博・鈴木涼太郎『観光のレッスン』新曜社(1400円+税)

観光には、さまざまな可能性が秘められています。いまよりも「自由になるための技能(リベラル・アート)」としての「ツーリズム」について、獨協大学の観光研究者3人が執筆した、ぜひ交流文化学科生に読んでいただきたい入門書です。

宮本常一『忘れられた日本人』岩波文庫(800円+税)

旅から文化を知る上で示唆に富む1冊。日本全国を自らの足で歩き、そこで見て聞いた人々の暮らしを記録した民俗学者宮本常一の代表作です。

"><<<トランサンショナル文化>>>

西日本新聞社編『増補 新移民時代—外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店（1600 円+税）
コンビニでバイトする外国人留学生はよく見かけても、彼女たち/彼らが日本に来た経緯は知らないと
いう方にお奨めの一冊。この本に刺激されて西日本新聞の記者になった交流文化学科の先輩もいます。以下のウェブサイトも併せてご覧ください。
https://specials.nishinippon.co.jp/special/new_immigration_age/

松村圭一郎『はみだしの人類学』NHK 出版（670 円+税）

「異文化理解」という言葉には、異文化を自文化とは全く異なる存在として捉えるという暗黙の前提があるように思えます。しかし、こうした境界線を引くことは、かえってお互いの違いを際立たせ、理解を困難にしてしまう場合もあります。では、そうならないためにどうしたら良いのでしょうか。本書には、そのことを考えるヒントがたくさん詰まっています。

平井晶子・中島満大・中里英樹・森本一彦・落合恵美子編『<わたし>から始まる社会学—家族とジェンダーから歴史、そして世界へ』有斐閣（3600 円+税）

「個人的なことは社会的である」（パーソナル・イズ・ポリティカル）という言葉を知っていますか。自分の個人的な悩み（家族のこと、恋人のこと、体形のことなどなど）は、実は社会によって生み出されたものであるという視点です。と言わても、??あなた、ぜひ<わたし>の問題と社会の何が、どのようにつながっているのか、この本を覗いて、確かめてみませんか？

"><<<グローバル社会>>>

最上敏樹『いま平和とは—人権と人道をめぐる 9 話』岩波新書（820 円+税）

平和に見えて平和でないこの世界、平和をどうやって作り、そして守っていくのか。そもそも平和とは何かを考えてみましょう。

* 北野収『国際協力の誕生（改訂版）』創成社新書（800 円+税）

地球上には貧困、紛争、環境問題などさまざまな課題が山積しています。私たちが他者を思う気持ちや利他的行動は国境を超えることができるでしょうか。物事はそれほど簡単ではないようです。

"><<<その他の参考図書>>>

苦野一徳『未来のきみを変える読書術—なぜ本を読むのか?』筑摩書房（税込 1210 円）

本は本にあらず、大学での学びの、そしてよく生きていくためのエネルギー源です。そんな本の読み方、本とのつきあい方を解説した入門書です。

山田肖子編『世界はきっと変えられる—アフリカ人留学生が語るライフストーリー』明石書店（2000 円+税）

皆さんが海外留学を目指すように、アフリカにも日本を含めた海外留学を目指す若者がいます。日本に来たアフリカからの留学生の語りは、私たちに大切なことを教えてくれるでしょう。

以上